埼玉県クイーンズランド州スカラシップ

淑徳与野高等学校 1 年廣澤絵美梨

この度埼玉県クイーンズランド州スカラシッププログラムに参加させて頂きました廣澤絵美梨です。クイーンズランドで過ごした 2 週間。見るもの、聞くもの全てが新鮮で、毎日が私にとって新たな世界との出会いでした。このような貴重な機会を頂いたこと感謝申し上げます。

イェップーンのビーチ

.・クイーンズランドについて

クイーンズランド州はオーストラリア、北東部に位置し、州北東部の熱帯雨林地帯が 1988 年、ユネスコにより「クイーンズランドの温潤熱帯地域」として世界自然遺産に登録された非常に自然豊かな場所です。また、学校の校庭で野生のカンガルーが見られたり、家の中にクッカバラという、鳥が入ってきたりと動物と自然に共存している印象を受けました。また、埼玉県のように信号機が見られず環境に優しく、効率の良いラウンドアバウトが多く取り入れられており先進的な環境対策が見られました。

・学校生活について

私たちはイェップーンでの滞在期間中、現地校である、イエップーン高校に 2 週間通学しました。現地での学校生活と日本の学校生活を比べて一番感じたのはイエップーン高校での学校生活は「自由」だと言うことです。通学手段や授業を受ける際の座席、そして教材の種類（電子もしくは紙媒体）、選択授業、休み時間の過ごし方など、学校生活のほとんどが生徒に委ねられている印象を受けました。「自由」と聞くとなんだか楽しそうな印象がありますが、「自由には責任がつきもの」と言われるように生徒に自主、自立を促しているように見えました。また、私たち留学生にはバディーと呼ばれる日によって変わる日本語クラスの生徒がついてくれて、その子たちの授業に一日参加する仕組みになっており、他国から来た留学生にも馴染みやすい仕組みになっていました。イエップーン高校には、留学生が多くヨーロッパやアジア、また、日本から来た留学生とも沢山出会いました。また、日本語クラスがあるので日本語を話すことができる生徒が多く、沢山日本語で話しかけてもらいました。日本語で話しかけてもらうこと、日本のことを知っててくれることが凄く嬉しく、私自身さらに日本が大好きになりました。

イエップーン高校

・ホームステイについて

私のホームステイファミリーは三人家族でしたが、実際にはドイツから来た留学生や親戚の方なども同居していたため多くの人が家におり、とても賑やかで笑顔の絶えない家庭でした。また、オーストラリアは土地が広大なため家が非常に大きかったです。私がホームステイの中で一番印象に残っているのはクッカバラという鳥の餌やりをさせてもらったことです。家の大きな窓から毎朝鳥が入ってきて、入ってきた鳥に餌（挽肉のようなもの）を投げて与えます。最初は家に鳥が入ってくることに驚きを隠せませんでしたが、鳥も人を恐れて攻撃するといったことは全くなく、人間に馴染んでる印象を受けました。自然をこれほど間近で感じたのは初めてでした。今でも忘れられません。

ホームステイファミリーはいつも優しく、分かりやすい英語で親身になって相談にものってくれました。また、オーストラリアのこと、イエップーンのことを沢山教えてもらい、数々の素敵な場所に案内してくれました。オーストラリアにもう一つの家族を持ったようにホームステイファミリーが大好きになりました。

家に入ってくるクッカバラ

・埼玉県親善大使として

私が現地で行った埼玉県親善大使としての活動は主に二つあります。一つ目は私の出身地である埼玉県本庄市とクイーンズランド州の共通の特産である小麦粉を使い本庄市の郷土料理である「つみっこ」をクイーンズランドの食材を使って作り振る舞ったことです。実際作ってみると日本には当たり前に売っている食材がなく困ったこともありましたが、クイーンズランドでしか作れない「つみっこ」ができました。国を越えて「美味しい埼玉県」の魅力が伝わったと思います。今度は本場の「つみっこ」を味わってもらいたいです。

二つ目はイエップーン高校、小学校での埼玉県と日本の紹介です。ここでは、パワーポイントや折り紙を使い、日本の文化、学校生活、ゆるキャラなどについて紹介しました。私が一番驚いたことは、多くの人が日本についてよく知っているということです。私は他国のことをこんなにも知っていないのでオーストラリアの異文化教育の質の高さに感動しました。また、日本が好きだ、日本に行ってみたいという声を沢山聞きました。

右からカレーライス、つみっこ

・まとめ

私は今まで一度も海外に行ったことがなく、行く前は自分の英語力やコミュニケーション能力に不安がありました。ですが実際行ってみて英語はただのコミュニケーションをとる手段であり、本当に大切なのは相手に「伝えたい」「相手の言っていることを理解したい」という気持ちを持って会話することだと考えが変わりました。勿論、相手の言っていることが分からないこと

や、自分の言いたいことが伝わらないこともありました。でも、諦めずに会話をすれば拙い英語でも楽しく会話をすることができます。また、イエップーン高校では日本語クラスがあるので日本語で会話をしたり、すれ違う度に「コンニチハ」「タノシンデマスカ」と沢山声をかけてもらいました。慣れない環境で聞く日本語は温かく、嬉しくなりました。今日埼玉県にも多くの外国から来られた方々が訪れています。そんなときに母国語で挨拶をしたり、困っているときに声をかけたりと自分がオーストラリアでやってもらったことを日本で恩返ししたいです。また、今回の留学で私にとって「普通」という言葉の持つ意味が大きく変わりました。私は幼小中と一貫の学校に通い、高校も同じ中学校の人が多い学校に進学したため、ある種、自分と育ちが似ている人としか関わってこなかったのかもしれません。私の「普通」はオーストラリアでは全く通用しませんし、オーストラリアにはオーストラリアの「普通」がさらにクイーンズランド州は、クイーンズランド州の「普通」が存在します。当たり前のことですが大切なことに気づかせてもらいました。今まで「普通」と聞くと「みんなの普通」＝「自分の普通」となっていることが多かったと思います。自分は小さい。でも世界は大きい。それを忘れず色々な世界を知って、自分の世界を普通を広めて行きたいです。

私は自分の世界を広げたくてこのスカラシップに応募しました。今回のスカラシップでは、世界が広がったというより、180°　新たな世界を知りました。この経験をもとに令和を先導する国際人を目指したいです。ありがとうございました。

イエップーンのビーチ

ロックハンプトン空港

コアラ

サーフィン体験